

国立大学法人 長岡技術科学大学
令和元年度第2回経営協議会議事要旨

日 時 令和元年11月28日（木）13時40分～15時36分
場 所 ホテルニューオータニ長岡【うめの間】
出席者 東議長、天羽委員、池田委員、大貝委員、合田委員、五味委員、関委員、谷口委員、
中野委員、鎌土委員、大石委員、秋山委員、和田委員、中出委員、湯川委員
(議事の表決委任による出席 磯田委員、トラン委員)
陪席者 齋藤監事、滝上監事、梅田附属図書館長
事務局 総務部長、企画・広報室長、総合情報課長、総務課長、財務課長、監査室長、
総務課専門員、財務課専門員、総務課総務係長、総務課総務係員

議事に先立ち、東議長から令和元年度第1回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 令和元年度長岡技術科学大学補正予算の編成について

秋山委員から、資料1-1～資料1-3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

2. 平成30事業年度目的積立金について

秋山委員から、文部科学大臣から承認された平成30年度決算剰余金を目的積立金へ繰り入れることについて、資料2に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

1. 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

鎌土委員から資料3に基づき、報告があった。

主な質疑応答は以下のとおり。（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

○項目別評価の「業務運営の改善・効率化」で業務改善を実施し業務の整理を行っていることが評価されているが、一方で新規事業の採択により業務が増え、勤務時間が増えることを懸念している。

●採択された事業においても、業務の範囲を広げすぎないようにしていきたい。

○RPAの導入状況はいかがか。

●財務課の業務に活用できないか試行している。早稲田大学や東北大学が進んでいると聞いているので、参考としたい。

2. 先端研究基盤共用促進事業 研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラムの採択について

鎌土委員から資料4に基づき、報告があった。

○本事業については、具体的な成果を挙げるとともに、課題も明確にしてほしい。課題を明確にすることにより、次のステップにつながる。研究推進のためにも必要なことである。

○女性技術者の訓練、人材育成も含めて実施してほしい。

●高専の技術支援者も人材育成の対象としている。高専が所有する装置についても、使える人が増えることによって有効利用が図れると考えている。

3. 科学技術人材育成補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの採択について 鎌土委員から資料5に基づき、報告があった。

○製造業には女性研究者の進出が少ない。女性研究者のロールモデルはどのようなものか。

●具体的なものは大学としても手探り状態である。今後、活躍されている女性研究者に講演してもらおうなど、参考にしていきたい。

○女子学生は身近にいる女性教職員を見ている。

まずは本学の女性教職員の実情を調べてみて、職場の環境などを整えるなど、教職員がモデルとなってもらいたい。

○研究機器が物理的距離を超えて遠隔でも使えるようになれば、時間短縮もでき、ここから働き方の変化も生まれてくる。

他の補助金の採択も組み合わせて効果が出せると良い。

4. 国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の採択について

鎌土委員から資料6に基づき、報告があった。

○地元の地域貢献につながるように、新潟県内の大学との連携も視野に入れてもらいたい。

●社会との連携や地域貢献の取組みの中で県内大学との連携可能な部分はあるので、どのように進めていくか検討していきたい。

5. 平成30事業年度財務諸表の承認について

秋山委員から資料7に基づき、報告があった。

6. 令和2年度概算要求について

秋山委員から資料8-1～資料8-3に基づき、報告があった。

その他

秋山委員から10月28日に長岡労働基準監督署の立入り調査があり、事務職員の未把握の時間外労働及び教員も含めた労働時間管理等について改善の指摘を受けたこと、またこれらの事項について改善策を講じていくことの報告があった。

以 上